

1. 単元名 レポートについて

2. 本時の概要

本時は、日々の学びを蓄積する「LIFEログ」の運用、「図書館を使った調べる学習コンクール」の概要把握、および探究活動の集大成となる「レポートの構成」の理解を主題とする。探究活動を形にするレポート作成において、序論・本論・結論の基本構成や学問的誠実性(引用のルールや生成AIの適切な利用)をこの時期に指導することは、情報の信憑性を判断し、論理的に自分の考えをまとめる力を養う上で不可欠である。先行研究に基づいた「問い」の立て方や仮説の設定、それらを検証するための構成メモ作成を通じ、夏休み以降の本格的な調査・執筆活動に向けた土台を築くことをねらいとしている。

3. 本時の目標

- **LIFEログの意義と方法の理解:** 「LIFEログ」の意義とルーブリック(レベル3)を理解し、日々の体験から自己の成長や課題を言語化する「成長に繋がる振り返り」を記述できるようになる。
- **課題提出に向けた注意点の把握:** 「図書館を使った調べる学習コンクール」の応募規定や著作権、生成AI利用時の注意点を正しく理解し、学問的誠実性を意識できる。
- **レポートの基本構成の理解:** レポートの基本構成(序論・本論・結論)を学び、自身の探究テーマに応じた論理的な構成メモを作成できる。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
 - 授業スライド 第10回
- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館
- 参考文献:
 - 片岡則夫(2021)『ちくまQブックス マイテーマの探し方 探究学習ってどうやるの?』筑摩書房

5. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
5分	導入とLIFEログの説明 ・本時の流れを確認した後、「LIFEログ」の概要について説明を受ける。 ・「今日の振り返りが明日の自分をつくる」という目的や、毎回の授業で教科学習、探究、行事の3項目を記録することを知る。 ・振り返りの質を高める3つのレベル(ループリック)について理解する。	・単なる事実の記録(レベル1)に留まらず、自身の変化や次への行動(レベル3)を意識するよう促す。
10分	LIFEログの記入 ・各自の情報端末を使用し、この1週間の学びや活動を「LIFEログ」に記入する。 ・内容を一言で表すタイトルを付け、自分の言葉で内省を行う。 ・項目が足りない場合は適宜複製して追加する。	・教員は巡回し、記入に迷っている生徒に対して、体験から得た気づきを引き出す声掛けを行う。 ・タイトルが内容を端的に表せているか確認する。
10分	コンクール概要の把握 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」の募集要項や校内締切(9月1日)を確認する。 ・作品のサイズ、ページ数、引用文献一覧の必須要素などの形式を理解する。 ・著作権の尊重や生成AI使用時の明記ルールについて学ぶ。	・単なる調べ学習ではなく、「疑問・調査・思考・表現」のプロセスが評価されることを強調する。 ・生成AIの丸写しは不正行為となることを厳格に伝える。
25分	レポート構成の理解 ・レポートの基本構成(表紙、目次、はじめに、本論、まとめ、謝辞、参考文献)について、給食の牛乳を例にした具体案で学ぶ。 ・リサーチクエスション(RQ)と仮説、検証方法の関係性を再確認する。 ・「理由解明型」と「課題解決型」の構成例を参考に、自身のレポートの型をイメージする。	・RQは「すぐに答えが出ない問い」であり、調査過程で更新されるものであることを伝える。 ・仮説には必ず事実やデータに基づいた理由が必要であることを指導する。
【2時限目】		

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
50分	探究ノート作成と構成メモの執筆 ・自身の探究テーマをSTEP1～4の手順で決定・更新し、探究ノートに入力する。 ・RefNaviを活用して先行研究を調査し、問いを立てる。 ・探究ノート末尾のMEMO欄に、序論・本論・結論の箇条書きで「構成メモ」を作成する。 ・適宜、過去の入賞作品をWebで閲覧し、まとめ方の参考にする。	・教員は「問い」が具体的になっているか（どこ、だれ、いつ等）を個別にチェックする。 ・構成メモでは、本論の各論点に対応する文献番号を必ず入れるよう指導し、根拠の明確化を図る。 ・10分の休み時間を挟み、集中力が持続するよう配慮する。